産業教育（専門教科）の授業アイデア・高校

地域産業の課題をデータで見つける

課題研究の入口で、実社会の課題を科学的な根拠から見いだします

高校1・2年（課題研究の導入段階）　1単位時間（50分）

課題の発見・データの読み取り・根拠をもって説明する

次期学習指導要領とのつながり



課題研究の導入段階　科学的な根拠に基づいて探究　産業界との連携

審議まとめは、「課題研究」について解説で履修学年を示さず、導入段階で実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れるべきとしています。また、産業教育の目標の「思考・判断・表現」に、データを収集し整理・分析した結果を考察することを前提として「科学的な根拠に基づいて探究」することを明示しています。現状の課題として、生徒が探究課題に出会う機会が限られることも指摘されています。この

授業は、地域の産業のデータと現場の声から課題の候補を見つける導入の時間です。

P288 P289 P291 P298 P299

ねらい

地域の産業に関するデータと現場の人の声をもとに、自分の専門分野と関わる課題の候補を見いだし、根拠とともに説明する。

準備するもの

- 地域の産業に関する公的な統計データ（教師が事前に選び、表やグラフにしたもの）
- 事前に連携先から聞き取った「現場の困りごと」のメモ（または短い動画）
- 課題発見シート（データから分かること／現場の声／課題の候補／根拠／自分の専門との関わり）

手順

1. **「この地域の産業の今を一言で表すと？」と問い、生徒の予想を出し合います。** 5分

2. **班でデータを読み、増えているもの・減っているもの・地域の特徴を見つけてグラフに書き込みます。** 15分

3. **現場の困りごとのメモ（動画）を見て、データと結び付くところを探します。** 10分

4. **課題の候補を2つ挙げ、それぞれ「どのデータが根拠か」「自分たちの専門の学びでどう関われるか」を書きます。** 12分

5 **班ごとに1分で発表し、他の班から「その根拠で言えるか」を質問してもらいます。** 8分

評価（見取り）のポイント

課題の候補がデータや現場の声という根拠と結び付いているか、専門分野の学びとの関わりを考えているかを見取り、この段階では助言を中心にします（形成的評価）。課題研究全体を通して、レポートや発表、作品などのパフォーマンス課題で評価します。

AIを使うなら

データの傾向を読み取る補助にAIを使う場合は、AIが示した傾向が元のデータで本当に言えるかを生徒自身に確かめさせます。AIの出力をそのまま課題にせず、自分たちの根拠で説明させます。

うまくいくコツ・アレンジ

- データは教師が事前に絞り込み、読み取りに時間がかかりすぎないようにします。
- 現場の声は、連携先と事前に目的を共有したうえで集めると、その後の課題研究でも継続して関わってもらいやすくなります。
- 課題の候補は解決まで至らなくてよく、探究を始める問いとして扱います。

アレンジ

- 農業科では農業従事者の年齢構成や作付面積、商業科では観光客数や商店数、福祉科では地域の高齢化率など、学科に応じてデータを選びます。
- 連携先が遠い場合は、オンラインで現場の人から話を聞く形にできます。

ほかのアイデア

外部の専門家と評価規準を共有する発表会

AIで傾向をつかみ、要因は自分で考える

※ 次期学習指導要領は告示前です。審議まとめ（2026年10月5日）の方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルのアイデアです。